

東海道四日市宿資料館に「未病コーナー」開設 展示パネル・DVD・語り部で、地域住民に紹介

一般社団法人日本未病総合研究所 事務局長 早乙女和雄

江戸時代に東海道の交通の要所として栄えた三重県四日市。四日市宿は、東海道五十三次の四十三番目の宿場で、江戸時代は幕府直轄の天領として知られていた。その中心街に今年6月1日、「東海道四日市宿資料館」がオープンした。その資料館の中に、地域の住民に、健康寿命を延ばすために「未病」を知ってもらうための「未病コーナー」がある。



三重県四日市から「未病」を発信

資料館は、江戸時代を中心とした四日市の歴史・民俗・文化を知ってもらうとともに、後世に継承していくために、地元の自治会や社会福祉協議会などの地域組織と、四日市の歴史研究グループ「綱の会」が協力して「東海道四日市宿創生協議会」（会長：橋本勝文氏）を結成し、資料の収集、語り部ボランティアの養成などを進め、開館にこぎ着けた。

この資料館は、一般社団法人日本未病総合研究所代表理事の福生吉裕氏の生家で、旧福生医院の空き家を活用したもの。館内には、戦国時代・江戸時代・明治から昭和初期の各種資料、獅子舞や演劇などの芸能史、東海道の宿場町と港、イオングループの創業家である岡田屋呉服店の歴史を紹介するコーナーなどがある。館内に展示してある史・資料は500点を超える。

家主の福生氏は、四日市市北町の出身で日本医科大学を卒業。脳血管障害の専門医で約35年前、脳卒中の原因となる高コレステロールの薬を処方する際、患者に「未病」の概念を知ってもらう必要があると気づき、1995年に東京未病研究会、後の日本未病システム学会を立ち上げた。資料館の一角にある「未病コーナー」には、これまでの活動を紹介した資料が展示されている。

自治体と連携して「未病」を推進

資料館の館長を兼ねる福生氏は、「未病で一人ひとりが自分自身の医者になれる。文化と健康の資料館にしたい。未病の理解はまだまだだが、この資料館を拠点に多くの人に未病を理解・浸透させたい」と話している。

「未病コーナー」では、未病の仕組みを解説したパネルが掲げられている。例えば、アキレス腱が幅

1センチ以上あると高コレステロール血症の可能性があり、耳たぶに縦われがあると心臓病の予兆につながるなどといった「未病サイン」の身体特徴を紹介する紙が30枚程貼ってある。また、脳卒中や胃がんなどの病気を解説するDVD（21枚）も視聴できる。「未病コーナー」で語り部をする真弓俊昭副館長は、「東海道の歴史や未病を介して会話が広がり、交流の場になればうれしい。気軽に誰でも集える場所にしたい」と話す。

10月26日には四日市市中部地区市民センターで、福生氏を講師に招いて「未病講演会」が開催され、会場に集まった約150名の市民は、熱心に「未病」の話を傾けていた。福生氏は、「こうした地域との交流を全国へ広げていきたい」と意欲を見せる。

厚労省は、2020年度から予防医療への取り組みが不十分な自治体には自治体交付金を減額し、積極的に取り組んでいる自治体には増額していく方針を明らかにしている。こうした流れを受け、日本未病総合研究所では、各地の自治体と連携して地域住民の「未病」の推進に努めていきたいと考えている。



開館時間：土日・祝日の9:00～16:00。入館料：無料。

住所：三重県四日市市北町3-19／TEL：059-390-3683（写真は 副館長の真弓俊昭氏）